# Asian Brooze

No. **97**August
2023



公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム KITAKYUSHU FORUM ON ASIAN WOMEN 〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11-4 北九州市大手町ビル 3F

TEL (093)583-3434 FAX (093)583-5195
E-mail: info@kfaw.or.jp URL: https://www.kfaw.or.jp
Facebook: https://www.facebook.com/kfaw.or.jp

エイジアン・ブリーズ 97号 令和 5年(2023年)8月発行 ウェブニューズレター

## 目次

G7 でジェンダー平等は加速したか、それとも単なるパフォーマンスとしての「フェミニスト外交」か?
- 山口 慧子(W7 Japan 実行委員)
CSW67 の会議概要報告       4         - 堀内 光子 (KFAW 理事長)
CSW現地レポート報告
NGO フォーラム パラレルイベント参加報告

5月19日から21日に、G7広島サミットが開催されました。今号のAsian Breeze では、そのサミットにW7(Women7)として関わられた山口慧子氏の記事をお届けします。

また、KFAW では 5 月 30 日に、「第 67 回国連女性の地位委員会(CSW67)報告会」を開催しました。CSWは経済社会理事会の機能委員会の一つで、ニューヨークの国連本部にて毎年 3 月頃に開催され、ジェンダー平等に関する政策立案を行っています。

KFAW 主催の報告会の登壇者は、KFAW 理事長の堀内、認定 NPO 法人日本 BPW 連合会員の奥崎さん、KFAW 国際交流課職員の上野です。

この記事では、それぞれの報告内容を掲載します。

G7 でジェンダー平等は加速したか、それとも単なるパフォーマンスとしての「フェミニスト外交」か?

- 山口 慧子

W7 Japan 実行委員

2023 年 5 月 19 日から 21 日まで広島で G7 サミットが開催され、ウクライナのゼレンス キー大統領も電撃参加したことは、皆さんの記憶に新しいのではないでしょうか。各国首脳間

でどのような議論がなされ、特にジェンダーに ついて、何が合意されるのかを見届けるべく、 今回 G7 広島サミットに参加しました。

サミットは首脳会談の場ですが、そこに私が 参加の機会を得たのは、エンゲージメント・グ ループに関与してきたことが理由になります。 近年、G7 の議論にそれぞれの分野から提言 を行う活動が盛んになっており、そのような活 動を公式的な形で行うグループをエンゲージ メント・グループと呼びます。その一つに、市民 社会の立場からジェンダー視点で提言を行う 「W7」があります。G7 が世界の GDP に占め る割合は4割に及びます。こうした影響を認識 し、W7 では一貫してグローバル・サウスから の参加を確保してきました。同時に、障害や性 的指向、性自認、年齢、民族など複数の属性に 基づき、差別や抑圧は交差的に作用するとい う考え方「インターセクショナリティ」の視点を 重視し、これまで十分聞かれてこなかった声が W7 としての主張(コミュニケ)に反映されるよ う努めました。私はW7の実行委員として、G7 広島サミットでの首脳宣言ができるだけジェン ダーに敏感なものになるよう動向を注視すべ く、参加をしたというわけです。

サミットではウクライナ情勢や核軍縮が大きなテーマとなりましたが、ジェンダーについても議論がなされました。サミットの成果文章である首脳宣言には、前回に引き続きジェンダーに関する項目」が設けられ、介護や育児といった「ケアワークやケア経済への支援を提供することにコミットする」との記述が含まれました<sup>2</sup>。また、SRHR(性と生殖の健康と権利)の保障がジェンダー平等と、性的指向や性自認を含む多様性を支援する上で不可欠かつ変革的な

役割を果たすとの認識が表明されたことは評価に値すると思います<sup>3</sup>。

一方で、全体を通して、これらの宣言を実行していくための具体的な政策についての記述は見られません。例えば、パラグラフ 44 には「今後数年間にわたり、ジェンダー平等並びに女性及び少女(女児)<sup>4</sup>のエンパワーメントを促進する、我々の二国間で割当可能なODAの割合を共同で増加させる」とありますが、時間枠を示した上での具体的な財源的公約が表明されるべきでしょう。理念を語るだけでは十分でなく、G7 をはじめ政治に求められているのは、資金拠出を含む具体的措置だからです。

また、サミットを広島で開催した理由として、 岸田首相は、「唯一の戦争被爆国である日本 の総理大臣として、広島ほど平和へのコミット メントを示すのにふさわしい場所はない」と語 りました。そして、その広島で、ウクライナへの 軍事支援を強化することが合意されました。紛 争が女性と少女に対し不均衡に影響を及ぼす ことから、軍事費の削減を含む非暴力的な外 交政策を求めてきた W7 としては、広島サミットが平和を謳いながらも武器供与の機会となったことに強い懸念を覚えます。

別の着目点として、昨年のドイツに引き継ぎ、 今回の首脳宣言にも性的マイノリティに関する 記述がありました。「LGBTQIA+の人々の人 権と基本的自由に対するあらゆる侵害を強く 非難する」との一文が用いられたことは、前年 度と比較して前進した点だと言えます5。

性的マイノリティの権利保障に関しては、今年新たなエンゲージメント・グループ「P7 (Pride7)」が設立されました。W7 と P7 は広島サミットの期間中、共同記者会見などを連

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 『G7 広島首脳コミュニケ』パラグラフ 42~44 に該当する。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> パラグラフ 36

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> パラグラフ 43

<sup>4</sup> 引用部分の「女児」という表現は、外務省による仮訳からの引用表記ですが、KFAW では原則的に「少女」を使っています。したがって本文中では、「少女(女児)」と表記しています。

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup> パラグラフ 43

携して行いました。ジェンダーに基づく差別は 男女間だけでなく、異性愛やシスジェンダーと いった規範的なセクシュアリティから逸脱して いるとみなされる性的マイノリティに対しても 向けられているため、連携することが重要です。

日本では、広島サミット後に「LGBT 理解増進法」が成立・施行されました。しかし、あくまでも「全ての国民が安心して生活することができることとなるよう、留意するもの」とされ、マジョリティへの配慮が滲む内容になっています。法律が施行された現在、人権侵害を強く非難するどころか、むしろ、特にトランスジェンダーを女性の安心・安全を脅かす存在とみなし、排除するような動きが強化されるようになったことに対し、P7 の委員からは広島サミットでの宣言は単なる外交的パフォーマンスだったのかと、厳しい批判がなされています。

広島サミットから約1カ月後の6月24日から25日には、日本で初めてとなる男女共同参画担当大臣会合が開催されました。同会合でW7の代表者3名は、各国の大臣と同様に、終始議論の場に参加・発言する機会を与えられました。男女共同参画大臣会合に市民社会組織であるW7が有意義な形で参加できたことは、インクルーシブな意思決定のあり方として高く評価できる点だと感じます。

会の最後に採択された男女共同参画大臣 宣言では、新型コロナウイルス感染症のパンデ ミックや世界各国で続く紛争、オンラインなど で、ジェンダーを起因とした差別や暴力がます ます複雑化し、解決が困難になっていると分析 がなされています。そのような状況を受けて、 同宣言はこう締めくくられています。

「我々は、全ての女性、少女(女児)、 LGBTQIA+の人々の人権と尊厳が完全に尊重され、促進され、保護される社会の実現に向けた努力を継続する。我々は、ジェンダー平等に対するバックラッシュと戦うことにコミットする。」 市民社会組織の一員として、この宣言に恥 じないよう G7 の各国が、日本が、実質的な行 動を起こし、ジェンダー平等を推進していくよ う、これからも政治状況を注視し、声を上げて いきたいと思います。

#### 【山口 慧子氏 略歴】

W7 Japan 実行委員、Generation Equality Youth Task Force メンバー、公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター理事。

ジェンダーに関する国際政治のプロセスにより 有意義な若者の参加と意見の反映を促進する ために、北京行動綱領採択から 25 周年を記 念し、UN Women により設置された" Generation Equality Youth Task Force"のメンバーとして、また公益財団法人 日本 YWCA の幹事として、草の根のレベルから国際政治の場までのさまざまなレベルで、ジェンダー平等に資する若者主体および多世代間協働での運動構築や戦略策定、ジェンダー平等を目指すプログラムやキャンペーンのコーディネート、啓発活動を担ってきた。

著書に「ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた 若年女性のエンパワメント」『NWEC 実践研究』 第12号、2022年。

# CSW67 の会議概要報告

# - 堀内 光子

#### KFAW理事長

CSW67の優先テーマは「ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成のためのデジタル時代における革新、技術変革及び教育」でした。

これについての議論は代表団のみで行われていましたが、デジタル社会の課題として、UN Women は課題を上記のようにとらえています。デジタルの世界では女性差別や排除が多くあります。AI 関係の労働人口における女性の割合は22%にとどまっており、AI システムの44.2%がジェンダー・バイアスを持っていると言われています。

今回の CSW67 では、初めてユースフォーラムが開催されました。詳細については十分な情報はありませんが、ジェンダー平等に向けて、一段と勢いを増しているように思います。

https://www.unwomen.org/en/csw/csw67-2023

# CSW現地レポート報告

#### - 奥崎 鈴彩

# 株式会社 GOTEN リゾート、日本 BPW 連合会会員、北九州市立大学 外国語学部英米学科卒

CSW67 には、現地時間での 3 月 5 日~3 月 16 日まで参加いたしました。その中でも印 象に残ったイベントを紹介させていただきます。

1つは、カナダのデジタル教育についての講演です。学校でのデジタル教育は15歳までが良いとされており、子どものころにデジタルに触れることが、デジタルに対する態度が変わるというお話でした。また、デジタルにおけるギャップが、新しいジェンダー不平等を生み出しているお話もありました。それを聞いて、日本でももっと早い段階でデジタル教育を行わなければならないと感じました。

もう1つは国際女性デーのことです。国際女性デーでは、国連ニューヨーク本部の本会議場で、代表による挨拶などが行われました。その中でも「周りの人に You are beautifulと言ってみましょう」という提案があり、会場全体で「You are beautiful」と言い合う声が響きました。この場に居られたことをとても幸せに感じました。

日本BPW連合会では、パラレルイベントも 主催しました。「起業におけるジェンダー主流 化への取り組み」をテーマに、タンザニアで事 業を行っている菊池モアナ氏のプレゼンテーションやグループディスカッションを行いました。 イギリス、韓国、フランスなどからも含め 42 名 の方にご参加いただきました。

現地で CSW67 関連会合に参加して、大きなエネルギーや、活動継続に勇気と自信をいただきました。参加者には様々な背景をもつ

方々がおり、私にとってロールモデルとなる方 ばかりで、将来への可能性も広がりました。他 の NGO のユースレポーターとも関わる機会 があり、異なるバックグラウンドがあり、刺激を もらい、活動意欲にもつながりました。

# NGO フォーラム パラレルイベント参加報告

### - 上野 真由子

#### KFAW 国際交流課職員

3月11日に、国際女性の地位協会 (JAIWR)が主催したパラレルイベントに参加しました。自身の発表のテーマは「途上国の行政官を対象としたジェンダー主流化のオンライン研修」です。アジア女性交流・研究フォーラムでは JICA 九州から受託し、行政官への研修を行っています。

この研修は 1992 年から 2022 年まで 30 年間続いており、91 カ国から 486 名の行政 官を受け入れております。2020 年以降、新型 コロナウイルス感染症蔓延により、オンライン での研修へと切り替わりました。

オンラインの利点は移動の必要がないことです。障害のある方や、介護や育児をされている方にとっても、有効であると考えられます。女子差別撤廃条約の第 10 条「教育における差別の撤廃」にあるように、オンライン研修を活

用することで、様々な理由で教育の機会に恵まれなかった方にも、機会を提供することができます。また、ビデオを録画することで、研修員が何度も視聴でき、より理解を深めることもできます。

しかし、オンラインには課題もあります。研修 員のインターネットの接続に関する問題です。 国によってはインターネット環境が十分に整備 されていない国もあります。また、対面では相 手の表情や声のトーン、場の雰囲気などを踏 まえて、言いたいことを理解することが可能で すが、オンラインではとても難しいということが 分かりました。

以上のようなオンライン研修の利点や課題 をふまえ、この経験を今後の業務に活かした いと思います。

今回のWeb版Asian Breezeはいかがでしたか。ぜひご意見、ご感想をお聞かせください。

Eメール 👉 🔀 info@kfaw.or.jp